

日本財団 ボラセン THE NIPPON FOUNDATION VOLUNTEER CENTER

ANNUAL REPORT
2025

登録者も活動の場も拡大中！ 『ぼ活！』 5th Anniversary

ボランティアプラットフォームサイト『ぼ活！』は、2021年のサイトOPENから5周年を迎えました。登録者数は53,000人を超え、日本最大級のボランティアプラットフォームへと成長しました。

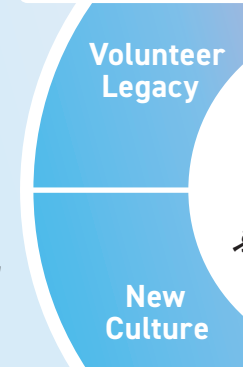


東京2020大会から引き継ぐ ボランティアレガシー

東京2020大会オリンピック・パラリンピックのボランティアレガシーを継承するために誕生した『ぼ活！』。その広がりには、多くの人を巻き込みながら、誰もが参加できるプラットフォームへと発展しています。

若者世代にも広がる 新しいボランティア文化

10～20代を中心に多くの若者が登録。ボランティアを通じた出会いや経験をきっかけに、新しい一歩を踏み出す若者が全国に広がっています。



初心者でも参加しやすい 環境づくり

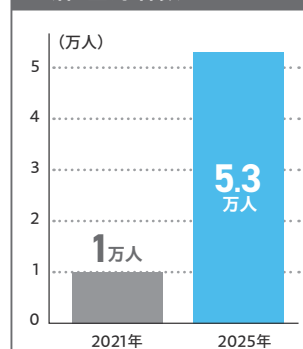
事前説明会やスタッフの常同など、初めての方でも安心して参加できる環境を整備。子どもから大人まで、誰もが気軽に参加できる取り組みを進めています。

スポーツ・海外・災害分野で 広がる活躍フィールド

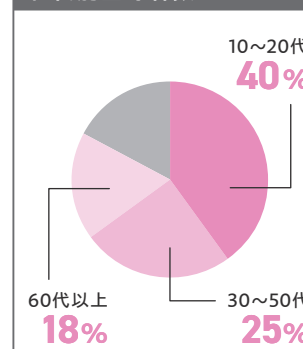
さまざまな分野のボランティア活動を紹介する中で、特にスポーツ・海外・災害分野での活動が広がっています。多くのボランティアが、それぞれの関心や想いにあわせて活動しています。



ぼ活！登録者数



世代別登録者数



ぼ活！ボランティアの声

「誰かのために」という想いで活動を始めましたが、温かい仲間や多くの学びに恵まれ、気づけば私自身が支えられていました。ぼ活！は、同じ志を持った仲間に出会える最高の居場所です。(20代 男性)

イベント会場でぼ活！のブースを知り登録しました。それから、いろんなボランティア活動に参加させていただき、仲間が増えています。今後もたくさんのボランティア活動を行っていきたいです。(60代 男性)

ボランティアを通じて人と人とのつながりが広がり、携わるボランティアの幅もアートやSDGsなどに広がりました。自分自身も、これからボランティアをやる人にとってのガイド、コンシェルジュのような存在になりたいです。(30代 女性)

ぼ活！のこれから



二宮雅也さん

日本財団ボラセン 参与
文教大学 人間科学部 教授

誰でもさまざまな活動に参加できる仕組みをボランティア活動はかつて、「知っている人だけが参加できる」あるいは「自分の興味ある活動のみに参加する」閉じたネットワークに存在していました。『ぼ活！』はそうした状況を打破し、さまざまなボランティアニーズを可視化することによって、「誰でもさまざまなボランティア活動に参加できる仕組み」をつくる点に今後の意義があります。

日本財団ボランティアセンター 活動の記録

2025年4月

「パラ水泳ワールドシリーズ
富士・静岡2025」に
ボランティアを派遣

国内初開催の国際大会で、26人のボ
ランティアが活動



9月

旅するボランティア



東京2025世界陸上



10月

災害ボランティア団体の事前登録制度
「被災者援護協力団体」に登録

官民連携体制の強化のため、令和7年の災害対策基本法の
改正により新設された新たな制度



旅する
ボランティア

◀ 詳細はこちら

公益財団法人東京2025世界陸上
財団とのボランティア運営に関する
協定書に基づき、ボランティアの研
修や広報・周知活動を通じて大会
準備に協力

3月

オランウータンの森
再生プロジェクト
累計2.5万本の植樹達成

2025年度は第7陣〜第10陣、合計52
人の学生を派遣



ORANGUTAN'S
FOREST
RESTORATION
PROJECT

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

5月

「学生のための
ボランティアEXPO」開催

学生とボランティア団体のマッチング
イベント。20団体が出展し、参加者104
人に活動やボランティア募集を紹介



ボランティア
EXPO

12月

『ボ学』
累計受講者数が2万人突破

2025年度は、合計49校、6579人が受講



ボ学

◀ 詳細はこちら

2026年1月

神奈川県・
JAPANボランティア協会と
「ボランティア活動推進に
関する協定」を締結

首都圏の自治体とは初の協定締結



2月

「TOKYO 2020 Volunteer
5th Anniversary
Celebration」開催

東京2020オリンピック・パラリン
ピックの開催から5周年を祝うセレブ
レーションイベント



多様なパートナーと目指す、ボランティア文化の醸成 日本財団ボランティアセンターのネットワーク

日本財団ボランティアセンターは、大学・スポーツ・災害の各分野において、ネットワークの構築や連携協定の締結を通じて、多様な団体との協働を進めています。学校や団体間の垣根を越えたつながりを広げながら、ボランティア文化の醸成と普及・発展を目指しています。

ボランティアに関する大学連携

全国各地の大学と連携協定を締結し、講座やプログラムの共催、講師派遣やボランティア活動の交通費・宿泊費の補助などを通じて、ボランティアに関する学内外プロジェクトをサポートしています。また、連携協定校による会議を開催し、情報共有と連携の強化を図っています。

連携協定締結校 121大学

大学連携
サポート事業数 41大学109事業
約2,500人の
学生が参加



ボランティアに関する
大学連携の
詳細についてはこちら



大学ネットワーク会議



中央大学
能登半島における復興支援ボラン
ティア活動



スポーツボランティアネットワーク(SVN)

スポーツボランティアネットワーク(SVN)は、全国のスポーツボランティア推進団体が参加する連絡協議会です。行政や教育機関、スポーツ推進団体、プロスポーツチームなど多様な団体が加盟し、年2回の会議やボランティア運営における相互協力を通じて、団体間の交流と連携を進めています。また、スポーツボランティアに関する研修を共催し、ボランティアの育成やスポーツボランティア文化の醸成にも取り組んでいます。

SVN加盟団体 99団体



スポーツボランティア
ネットワークの
詳細についてはこちら



スポーツボランティア研修



MINATOシティハーフマラソン



VTCネットワーク

技術系災害ボランティアの普及・発展を目的とした連絡協議会です。団体間の情報共有や連携を促進し、講習会への講師派遣や災害時のボランティア派遣などで相互に協力しています。また、災害発生時にはVTCの重機・資機材の貸し出しも行っています。2025年は、台風15号に伴う竜巻被害が発生した静岡県牧之原市で活動する加盟団体に貸し出し、被災地支援に活用されました。

連携団体
・技術系災害NPO
・自治体、行政
・社会福祉協議会
・消防本部、消防学校
・警察 など



VTCネットワークの
詳細についてはこちら



大船渡チェンソー講習



台風15号に伴う竜巻被害の被災地
静岡県牧之原市で使用されたVTC重機



ボランティア活動

127回のべ
5,236名派遣

セミナー/イベント

226回のべ
21,652名参加

ほ活!

ほ活!サイトは
こちらから



公開資料については、
こちらでご確認いただけます。

[https://www.volacen.jp/
about/public/](https://www.volacen.jp/about/public/)



VISION

私たちは、日本に新しいボランティアカルチャーをつくります。



ぼ活！海外ボランティアプログラム4か国目 「よいドン！から始まる国際協力 世界で大運動会 in カンボジア」



カンボジアでスポーツを通じた国際協力および教育支援を行うプログラム「よいドン！から始まる国際協力 世界で大運動会 in カンボジア」を立ち上げ、2025年11月に第1陣、2026年2月に第2陣として、学生ボランティア計26人を派遣しました。

派遣概要

グループ名	派遣期間	参加人数
第1陣	11/7 ~ 11/16	13人
第2陣	2/27 ~ 3/8	13人



学生ボランティアがつくり上げた、はじめての運動会

首都プノンベンから車で約3時間のトボンクムン州にある2つの小学校で、子どもたちやその家族、地域の人々が参加する「運動会」を実施し、子どもたちが楽しめるだけではなく、スポーツを通じて、世代や立場を越えて同じ時間を過ごし、地域のつながりを深めることを目指しました。

学生ボランティアは、会場レイアウトの設計や競技内容の検討、用具の準備などを行い、ゼロから運動会をつくり上げました。

当日は全校の子どもたちが参加し、全学年混合の3チームに分かれて総合得点を競いました。二人三脚や大玉転がし、玉入れなど約10種目を実施。競技に参加していない時間も、子どもたちはチームメイトへ声援を送り、会場は一体となって盛り上がりました。中でも、教員や地域住民、学生ボランティアも加わった綱引きは、両小学校で最も大きな歓声に包まれる場面に。最後には優勝チームにトロフィーが授与され、学生ボランティア、子どもたち、地域の方々にとって記憶に残る一日となりました。

参加者の声

たくさんの気づきと 学びが得られました

子どもたちの素直で元気な姿が印象的でした。言葉や文化の違いを越えて一緒に体を動かす中で自然と距離が縮まり、多くの気づきと学びを得ることができました。活動を通じて、支援する側であると同時に、自分たちも多くを学ばせてもらっていると実感しました。



中村太洋さん
第2陣参加者

「協力」の大切さを 伝えることができました

これまで全学年が一緒に活動する機会はなく、非常に新鮮で意義のある取り組みでした。授業で伝えてきた「協力」の大切さを、スポーツを通じて伝えられたことは大きな成果で今後も続けていきたいですね。ボランティアのみなさんには、今後も日本の文化や価値観をカンボジアに伝えてもらいたいです。



Yo Sotheavy さん
Chhuk Sandal小学校 校長

その他の『ぼ活！』の海外ボランティアプログラム



オランウータンの森 再生プロジェクト

マレーシア・ボルネオ島の熱帯雨林の再生と保護を目的に、10年間に10万本の植樹を目指すプロジェクト



子どもと未来を創る ソーシャルアクションキャンプ in 東ティモール

アジアで最も新しい国「東ティモール」で、子どもたちを対象とした教育支援を行うボランティアプログラム



美しい海を未来へ残そう！ ～PIG EGGプロジェクト in バリ島～

インドネシア・バリ島や日本国内での活動を通して、海を取りまく様々な課題の解決に取り組む

東ティモールから初の国際大会に挑んだ選手たちをサポートした 「東京2025デフリンピック」



参加者の声

新しい希望を与えてくれた

東ティモールの人たちと出会い、交流する中で、たくさんの発見と学びをもらいました。その一つひとつが、私たちに新しい希望を与えてくれたと感じています。だからこそ、私たちも少しでも役に立てるよう、これからも関わっていきたいと思いました。



米澤俊太郎さん
ボランティア

みなさんの応援は今でも忘れられません

食事や移動の時間も含めて、ボランティアのみなさんがいつもそばで寄り添い、支えてくれていたことが、とても嬉しかったです。試合のとき、観客席から応援してくれていたあの光景は、今でも忘れられません。本当にありがとうございました。



Ivonía Gutierrez さん
選手

大阪・関西万博に行きたい人たちの夢をかなえた 「LET'S EXPO」



行こう。あきらめていた人と。

2025年4月から10月にかけて開催された大阪・関西万博は、来場者数が2,500万人を超え、大きな盛り上がりを見せました。こうした中、障害のある方や高齢者の参加を後押ししたのが、ユニバーサルツーリズムプロジェクト「LET'S EXPO」です。

2,500人のボランティアが参加

「行こう。あきらめていた人と。」という理念のもと、「万博に参加したい」という思いをリアルとバーチャルの両面から支えた取り組みです。車いす利用者や視覚障害のある方を対象とした「会場内サポート」や、来場が難しい方に向けてパビリオンをライブで紹介する「オンラインツアー」などを通じて、誰もが万博を楽しめる環境づくりを推進。一般社団法人関西イノベーションセンターが運営したプロジェクトに、日本財団ボラセンも協力しボランティアの募集や研修を実施しました。会場内サポートでは、3人1組のボランティアチームが付き添い、移動や見学を支援。来場者が安心して会場内を巡れるよう、きめ細やかな対応を行いました。最終的に432人が利用し、のべ約2,500人のボランティアがサポート。この取り組みはBIE(博覧会国際事務局)からも高い評価を受け、今後の国際イベントにおけるアクセシビリティ向上のモデルとして期待されています。



参加者の声

ご家族も安心して楽しんでほしい

ボランティアとして会場を回ると、周囲に気を配るあまり展示を見る余裕がありませんでした。ご家族も普段、同じような経験をされているのではないかと思います。ボランティアが関わることで、ご家族も安心して楽しめる点が、この取り組みの魅力だと感じました。



尾垣まゆ美さん
ボランティア

最多のべ1,207人が活動！

「木下グループジャパンオープンテニス チャンピオンシップス2025」



参加者の声

次回は知人を誘って参加したい！

観戦をきっかけに大会のボランティアへ応募。初めてで不安もありましたが、経験者の方々が温かく迎えてくださり、明るい雰囲気の中で楽しく活動することができました。充実した時間を過ごし、次回は知人を誘って一緒に参加したいと思える貴重な経験となりました。

2025年9月22日から30日にかけて、東京・有明コロシアムで開催された「木下グループジャパンオープンテニスチャンピオンシップス2025」に、ほ活！ボランティアが運営ボランティアとして参加しました。大会での活動は、昨年に続き2回目です。

大規模な国際大会を支えたボランティア・リーダー

国内で開催される男子テニスの国際大会の中でも最大級の規模を誇り、世界トップ選手が出場。連日、多くの観客が会場を訪れました。

ほ活！ボランティアは、大会初日の予選から決勝まで、1日あたり100～180人が活動し、チケットチェックやゲート管理などを担当。来場者が安心して観戦できる環境づくりを支えました。特に大規模な現場を支えたのが、ボランティア・リーダーの存在です。スタッフと連携しながら、メンバーのグループ分けや休憩のローテーション調整などを担い、円滑な運営を支えました。こうしたリーダーの活躍もあり、のべ1,207人が参加した大会は無事に終了。世界最高峰のプレーが繰り広げられる会場での活動は、ボランティアにとっても、緊張感と高揚感の中で充実感のある活動となりました。

現場ならではの臨場感に圧倒

テニスのボランティアは初めてで緊張しましたが、試合中の選手と観客が生み出す緊迫感や高揚感を間近で感じることができ、現場ならではの臨場感に圧倒されました。リーダーの方々がこまめに声をかけてくださったことも心強く、安心して活動に取り組むことができました。

災害ボランティア研修 46回開催のべ約500人が利用 『日本財団災害ボランティアトレーニング センター（VTC）』



近年、自然災害の多様化・激甚化に伴い、より多くのボランティアの力が求められています。2025年度は、専門的な知識や技術を備えた災害ボランティアの育成を目指し、災害ボランティア研修のプログラムを刷新しました。災害現場に近い環境でのトレーニングや、資機材を用いた実技演習を充実させるため、VTCで開催する研修を拡充し、1年間で46回の研修を開催。約500人が受講しました。

国内初の施設「家屋訓練棟」が完成

地震や台風などの災害では、屋根の損壊や浸水被害などの二次被害を防ぐため、迅速な応急処置が求められます。一方で、家屋の構造などの専門知識や安全対策の知識と技術の習得が欠かせません。

2025年10月にVTC内に完成した「家屋訓練棟」は、実寸大の家屋を使用し、家屋内の構造や屋根構造の理解、安全確保の手順、ブルーシート張りの実践まで、現場対応に必要なスキルを学ぶことができる国内初の施設です。

現在は、基礎知識から専門技術まで学べる全8種類の災害ボランティア研修を対面やオンラインで実施し、そのうち6種類の対面研修をVTCで開催しています。

多様なボランティアがのべ約1,000人来場 『Volunteer's Summit 2026』



Volunteer's Summit 2026

COLORFUL LIFE, WONDERFUL DAYS.

トークセッションなど、全20プログラムを実施

2026年2月23日、東京都文京区の中央大学 茗荷谷キャンパスにて、カンファレンス&アワードセレモニー『Volunteer's Summit 2026』を開催しました。

テーマは“COLORFUL LIFE, WONDERFUL DAYS.”。「ボランティア一人ひとりの人生が彩り豊かになることで、その彩りが日常や社会にも広がっていく」という想いとともにより多彩な分野をテーマにしたトークセッションなど、全20プログラムを実施しました。

当日は、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催から5年の節目を祝うイベント「TOKYO 2020 Volunteer 5th Anniversary Celebration」とあわせて、のべ約1,000人の方が来場。世代や分野を越えたボランティアが参加し、それぞれの経験や想いが交差し、新たな出会いや気づきが生まれる、まさに“COLORFUL”な一日となりました。



『Volunteer's Summit 2026』の
詳細についてはこちら



ボランティアを称えるアワード 『ほ活！MARCH AWARD 2026』



感謝を込めてデファスリートを表彰

多様性あるやさしい社会づくりに貢献したボランティアや団体を称える『ほ活！MARCH AWARD 2026』は、個人表彰12人、団体表彰1団体が受賞しました。表彰式には、柔道家の阿部詩さんがプレゼンターとして登壇。さらに今回は特別表彰として、ほ活！の活動にご協力いただいたデファスリートの皆さんを表彰しました。東京2025デフリンピックの盛り上がりの背景には、多くのデファスリートが競技の魅力や想いを発信し、機運を高めてきたことがあります。また、ほ活！手話セミナーなどにも継続的にご協力いただき、ボランティアが新たな一歩を踏み出すきっかけを生み出してきました。こうした取り組みへの感謝と敬意を込め、特別表彰を実施しました。

個別表彰 ほ活！ボランティア 12人

団体表彰 一般社団法人 関西イノベーションセンター

特別表彰 ほ活！の活動にご協力いただいたデファスリートの皆さん

受賞者コメント

普段出会えない人と出会えるのが魅力

最初は軽い気持ちで参加したのですが、人とのつながりの温かさに触れ、ボランティアはこんなにも心が動かされるんだと感じたことが続けるきっかけになりました。ボランティアの魅力は、普段出会えない人と出会えること。年代や価値観も違う人と関わることで新しい考え方や生き方を知り、世界が大きく広がりました。



丹羽晴香さん
個人表彰 受賞者

ボランティアの方々のおかげで競技に集中できる

デフリンピックの期間だけでなく様々なデフスポーツの国内大会でも、ほ活！のボランティアの皆さんがサポートしてくださいました。私たち選手が競技に集中できるのは、皆さんの存在があるからです。こうした活動や手話セミナー等を通じて交流が深まり、選手とボランティアの距離が近づいていることを嬉しく感じています。



佐藤 湊さん
特別表彰
デファスリート代表、
デフ陸上競技選手



『ほ活！MARCH AWARD 2026』の
詳細についてはこちら